

2024年3月期決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://www.transgenic.co.jp>

2024年5月10日
株式会社トランスジェニック

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

I. 2024年3月期連結決算概要	・・・ 2
II. 創薬支援事業の状況	・・・ 6
III. 投資・コンサルティング事業の状況	・・・ 10
IV. 2025年3月期連結業績予想	・・・ 14



I . 2024年3月期連結決算概要

2024年3月期連結決算：ハイライト

- 連結売上高は、創薬支援事業及び投資・コンサルティング事業の両事業が増収となり過去最高売上高を更新。
- 営業損益は、創薬支援事業における先行投資負担による大幅減益の一方で、投資・コンサルティング事業の大幅増益により黒字転換。

売上高

13,083百万円

対2023年3月期
1,653百万円増（14.5%）

創薬支援事業	65百万円増（2.9%）
投資・コンサルティング事業	1,589百万円増（17.3%）
本社・連結調整	-

営業利益

89百万円

対2023年3月期
114百万円増（- %）

創薬支援事業	159百万円減（- %）
投資・コンサルティング事業	265百万円増（162.4%）
本社・連結調整	7百万円増

経常利益

108百万円

対2023年3月期
90百万円減（△45.6%）

親会社株主に帰属する 当期純利益

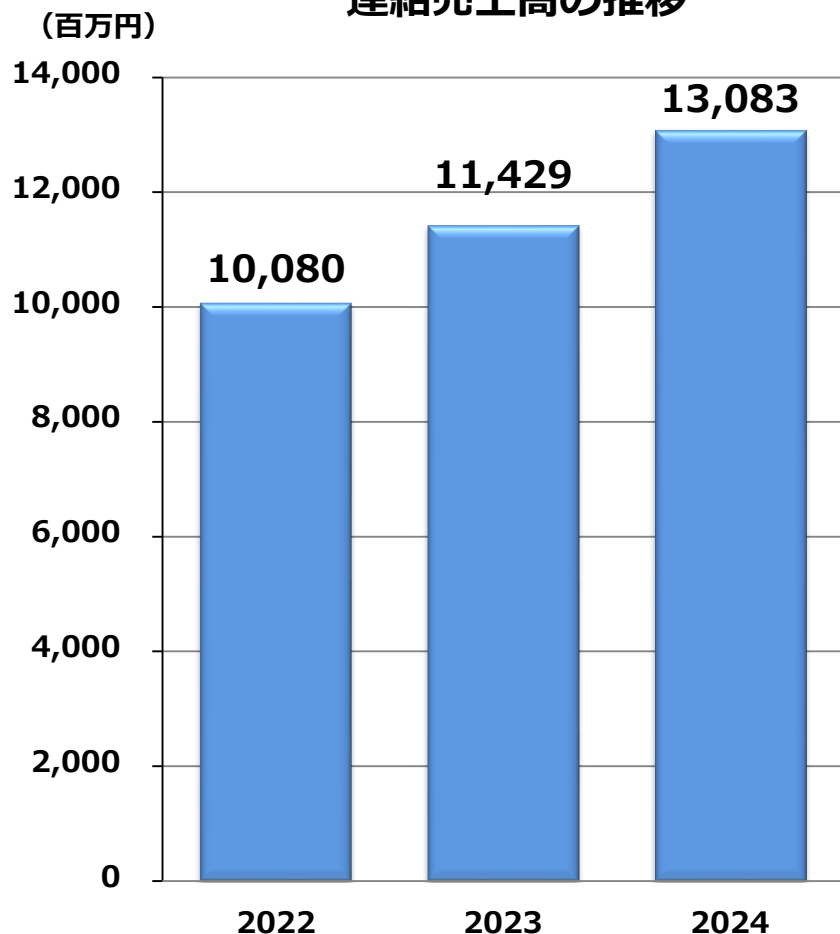
4百万円

対2023年3月期
413百万円増（- %）

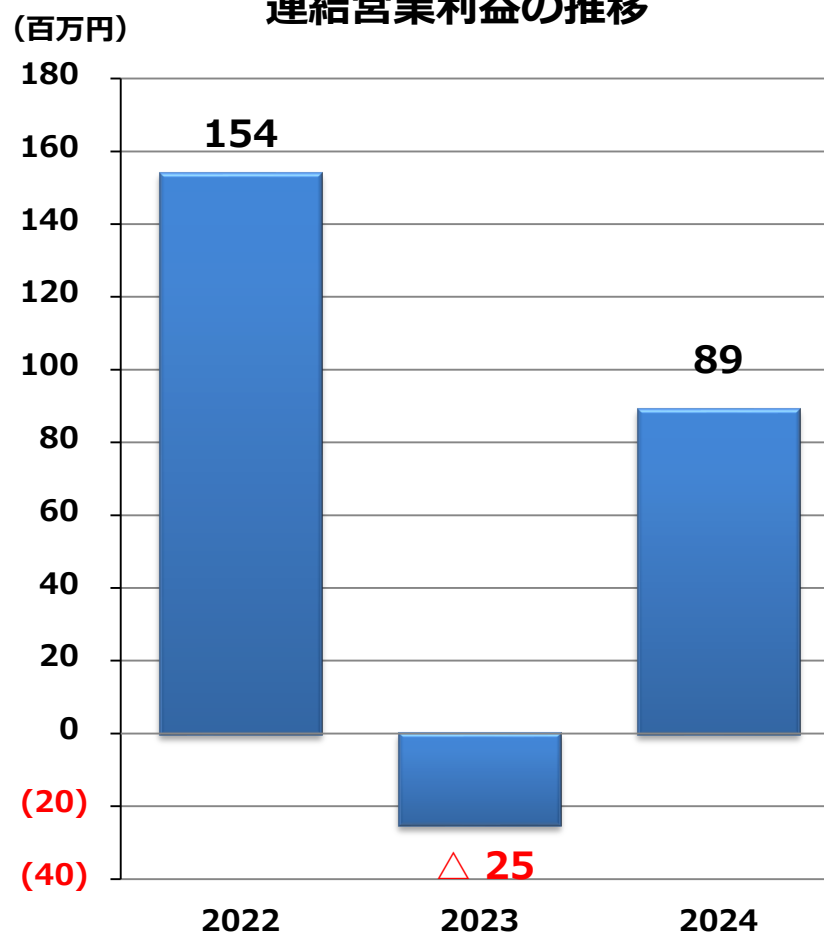
2024年3月期連結決算：業績推移

連結売上高は拡大傾向を維持しており、連結営業利益についても、円安・物価高の影響や創薬支援事業における先行投資負担が発生する中で黒字転換。

連結売上高の推移



連結営業利益の推移



※2022年の連結売上高及び連結営業利益については、2022年1月に譲渡した診断解析事業を除外しております。

2024年3月期連結決算：連結キャッシュ・フロー

投資・コンサルティング事業における運転資金の拡大、創薬支援事業における設備投資、また、借入約定返済等により、営業・投資・財務C/Fはそれぞれ支出超過。

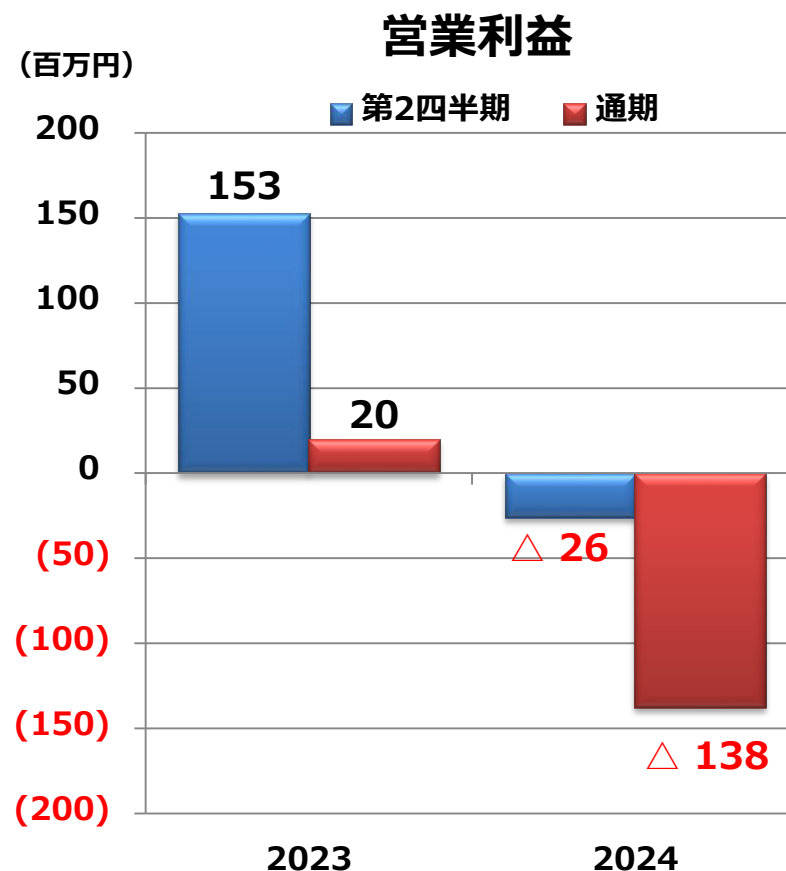
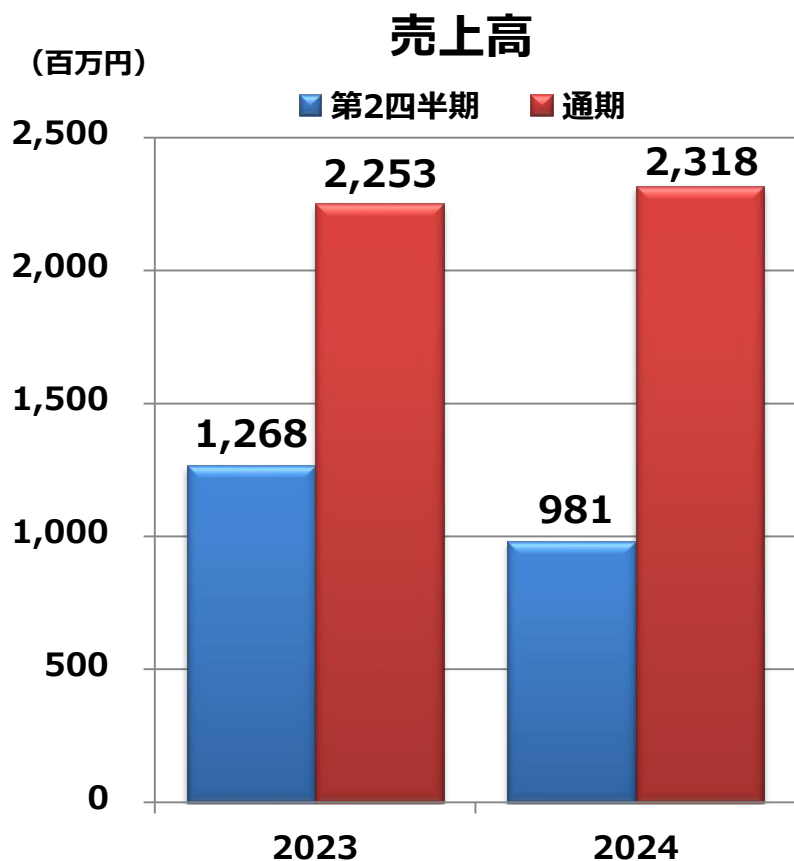
単位：百万円		2023年3月期	2024年3月期	増減要因
営業 キャッシュ・ フロー	税引前利益	△331	43	
	売上債権等(*)の増減額	△300	△695	(*)売上債権・棚卸資産・仕入債務・前受金
	法人税等の支払・還付（純額）	△456	81	前期中間納付額の還付
	その他	△341	179	
		△1,430	△392	
投資 キャッシュ・ フロー	有形固定資産の取得	△306	△265	主に創薬支援事業における実験施設関連投資
	その他	90	△15	
		△216	△280	
財務 キャッシュ・ フロー	有利子負債の増減額	585	△180	主として銀行借入の約定返済
	自己株式の取得	-	△78	30万株の自己株式取得を実施
	配当金の支払額	△100	△83	
		484	△342	
現金及び現金同等物に係る換算差額		1	22	
現金及び現金同等物の増減額		△1,159	△993	
現金及び現金同等物期首残高		4,618	3,459	
現金及び現金同等物期末残高		3,459	2,466	



Ⅱ. 創薬支援事業の状況

創薬支援事業：業績概要

- **売上高**：豊富な期首繰越受注残及び遺伝毒性試験受託の好調等もあり非臨床試験事業は増収なるも、臨床試験事業の苦戦により全体では微増。
- **営業損益**：受注拡大に向けた(株)安評センターにおける即戦力人員の獲得や設備投資等の先行投資負担、及び高収益体質転換を目的とする研究開発投資の増加により減益。



創薬支援事業：2024年3月期における取り組み(1/2)

創薬支援事業グループの再編：(株)新薬リサーチセンターと(株)安評センターとの経営統合

(経営統合の目的、及び背景)

- 当社は、遺伝子改変マウス事業を基幹とする大学発ベンチャーであったが、事業構造強化・事業領域拡大を目的として、過去10年間に亘り積極的にCRO事業のM&Aを実行。
- (株)新薬リサーチセンターにおける(株)安評センターの子会社化もその一環であり、右図の通り、各社、異なる研究開発ステージにおけるサービスに強みを持っている。
- 本経営統合により、経営資源集約を通じた事業運営の効率化、及び営業の強化を実現するとともに、シームレスなトータルサービスが提供可能な、強い競争力を有する中核会社を設立し、企業価値の最大化を図る。
- 強い経営基盤を武器に、TGR試験※に続く高付加価値サービスの導入・開発を強化し、高収益体質の企業体への転換を図る。

※トランスジェニック動物を用いた遺伝子突然変異試験

(経営統合イメージ)

本合併前	研究開発ステージ			
	基礎研究 探索研究	非臨床試験 (薬効薬理)	非臨床試験 (安全性)	臨床試験
株式会社新薬リサーチセンター NDRC NEW DRUG RESEARCH CENTER		➡		➡
株式会社安評センター BSRC BioSafety Research Center	➡		➡	
↓ 合併 ↓				
本合併後	基礎研究・探索研究から非臨床・臨床領域まで、 一気通貫のシームレスなトータルサービスを提供			
合併会社：(株)トランスジェニック Trans Genic Inc.	➡			



創薬支援事業：2024年3月期における取り組み(2/2)

項目	目的	進捗状況
中期発がん性試験 ※1の導入	発がん性関連領域における需要が高い技術・サービスを他社に先んじて導入し、迅速に市場優位性の確立を目指す。	2024年3月から、受託サービス開始。
TGZF※2を用いた(株)安評センターとアンジェス(株)との共同研究開発	アンジェス(株)は開発候補の薬剤及び炎症に関連する既市販薬剤を投与しTGZFモデルの有用性を検証し、(株)安評センターは確立したTGZFモデルを用いた次世代創薬スクリーニングサービスを展開する。	アンジェス(株)と開発したTGZFモデルの有用性について、データ検証中。
肝臓ヒト化マウス	差別化可能な高付加価値サービスとして、ヒトの肝臓機能が反映されたマウスを用いた、薬剤の効果や代謝などの非臨床実験を提供することで高収益体質への転換を図る。	当該マウスを用いた非臨床試験受託サービス開始に向け準備中。

※1 長期がん原性試験代替法として推奨され、また厚生労働省の「医薬品のがん原性試験に関するガイドライン」にも「がん原性検出のためのin vivo追加試験」として明記されています。

※2 TGZF(トランスジェニックゼブラフィッシュ)は、ヒトとの疾患ゲノム類似性が約80%など、人への外挿性が高く、スクリーニングが簡便なことから非臨床試験において代替法として需要が高まっており、TGZFモデルは、薬剤に対する反応性の確認に有効であると期待されています。



Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

投資・コンサルティング事業：事業概要及び特徴

事業概要・特徴

M & Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業承継及び事業再生分野に係る助言・支援及び投資を実行。事業承継案件を対象に、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資要件として、2024年3月末時点で主要6社に投資を実行し事業運営。

Trans Genic Inc. 純粋持株会社

TGBS 中間持株会社
TG Business Service Inc.

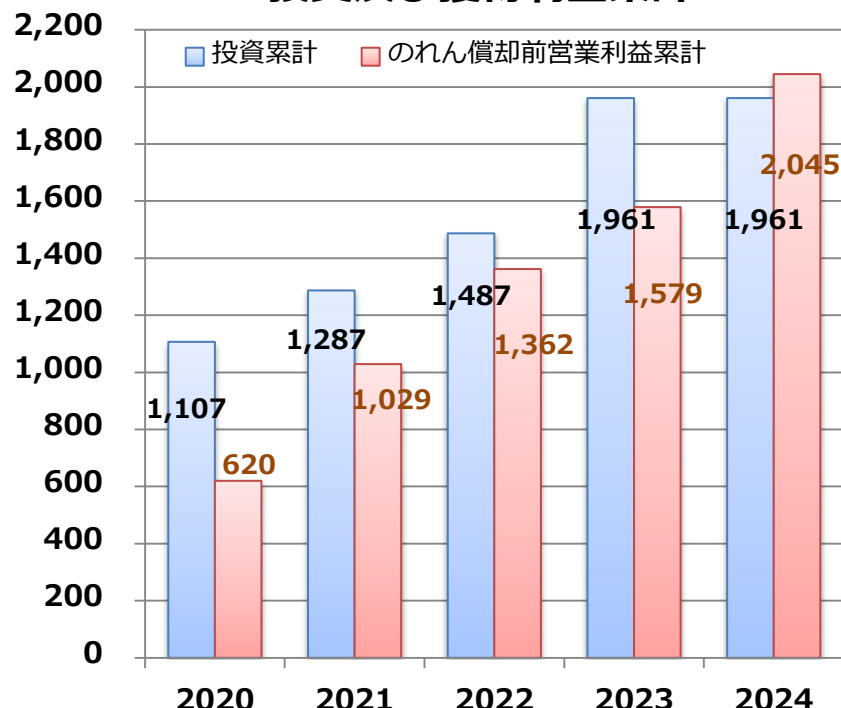
EC事業

商社事業他

EC事業	家電製品全般や、主にヨーロッパから輸入した食器、雑貨等をECサイトで販売を行う2社で構成
商社事業他	最先端の硝子専門加工機器及び関連する資材・消耗品の輸入販売から設置までを取り扱う専門商社や、海外純正品のトナーの輸入卸・加工・販売及びリサイクルトナー用部材の卸販売を行う商社等、主に4社で構成

(百万円)

投資及び獲得利益累計

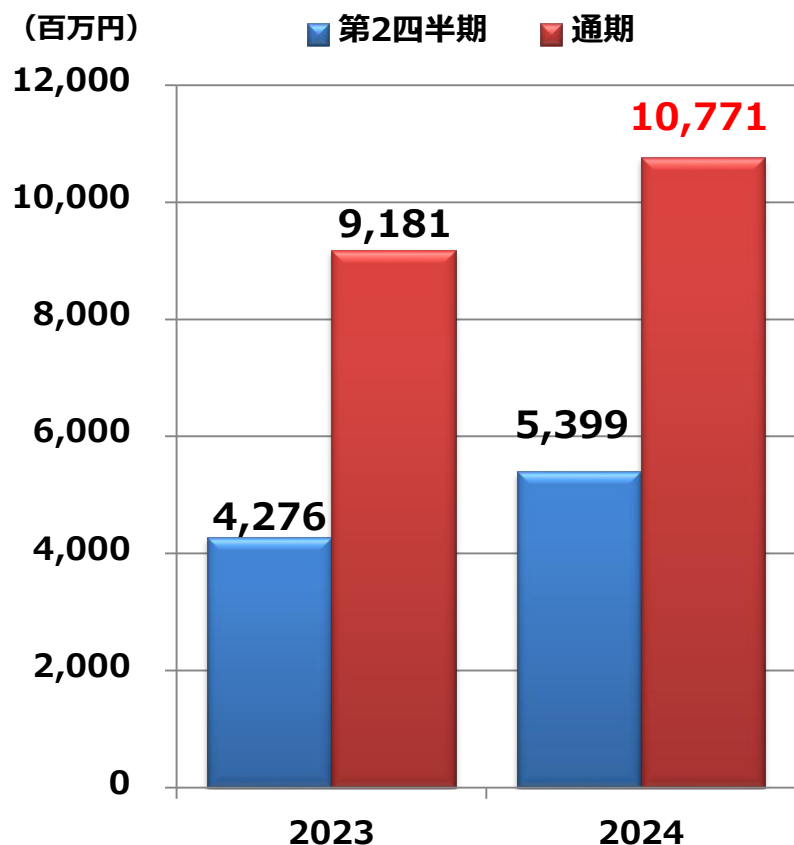


M&A市場が拡大している事業承継案件を対象に、ここまで、「ニッチ・黒字安定・自走経営」を投資条件として投資を実行。今後も、投資回収状況、グループの財務状況を見て投資を継続し事業拡大を図る方針。

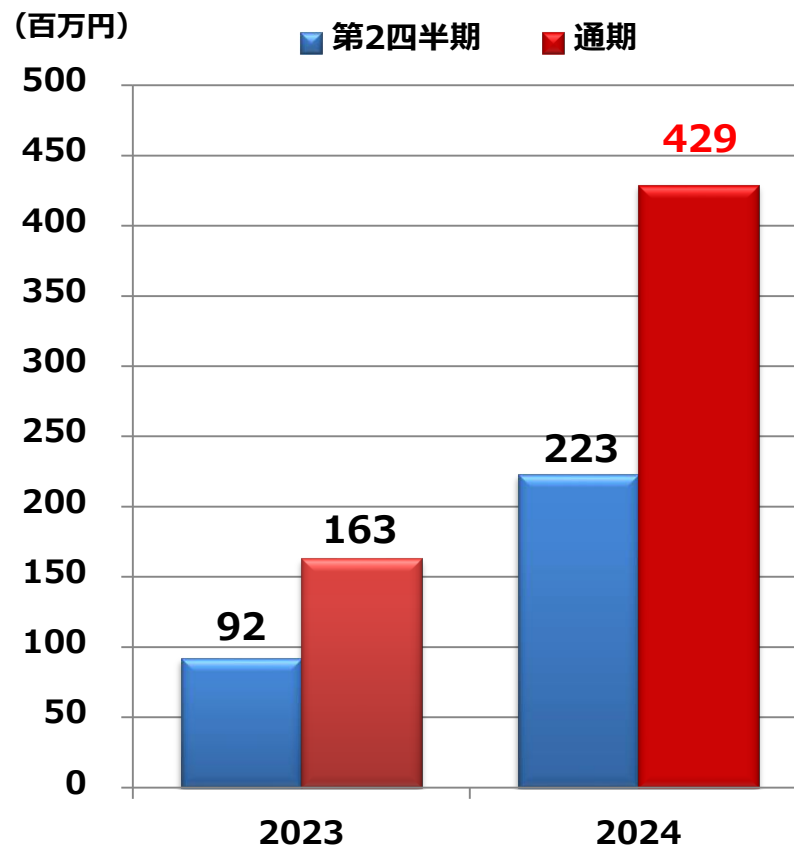
投資・コンサルティング事業：業績概要

- 売上高：(株)TGMを中心に商社事業が大きく売上高を伸ばし大幅増収。
- 営業損益：大幅な増収と円安・物価高を背景とした価格改定を進めた結果、大幅増益。

売上高



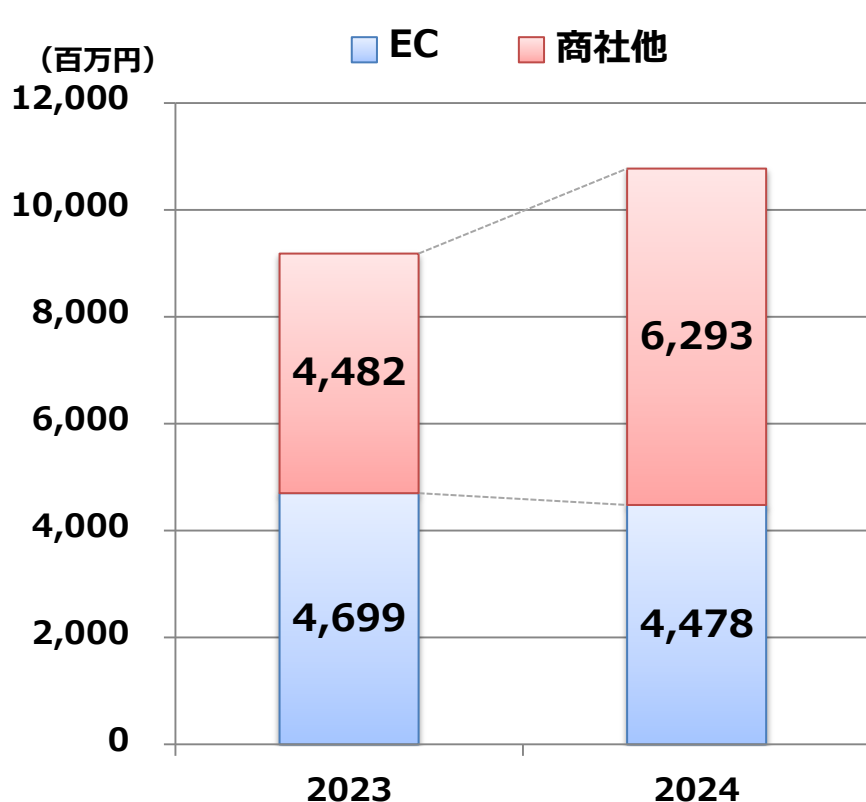
営業利益



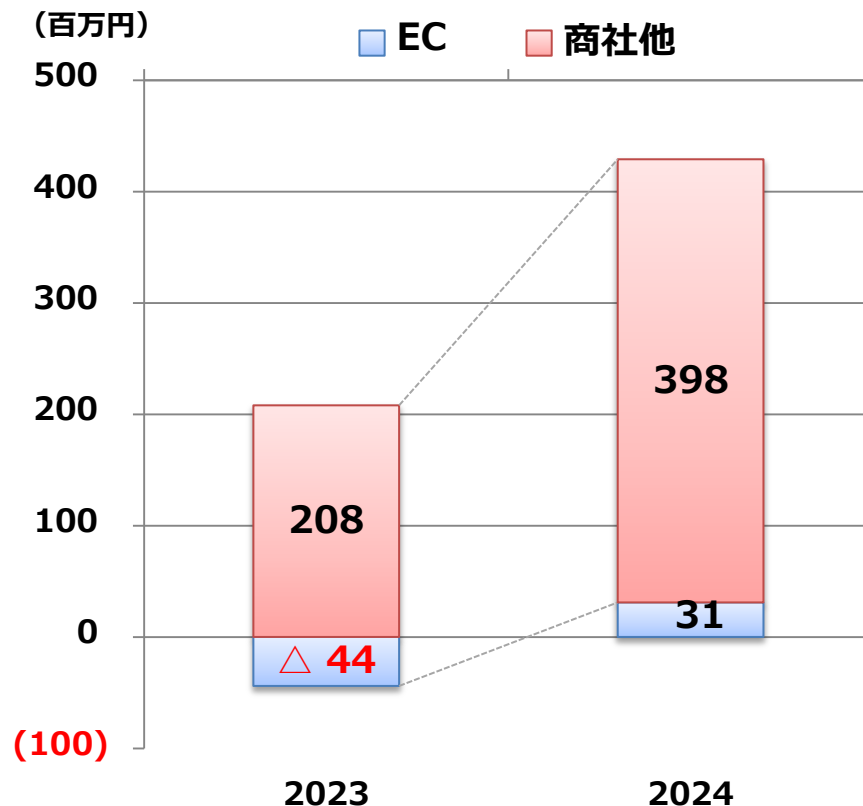
投資・コンサルティング事業：業績概要

- EC：売上高については物価高を背景とする消費不況の影響により伸び悩むも、営業損益については、在庫管理及び粗利管理の徹底により大幅に改善し黒字転換。
- 商社他：売上高及び営業損益については、営業活動の強化及び円安・物価高を受け適宜、価格改定を進めた結果、大幅増収増益を達成。

売上高



営業利益





IV. 2025年3月期連結業績予想

2025年3月期 連結業績予想

- 連結売上高については、両事業ともに増収トレンド維持を予想。
- 連結営業利益については、創薬支援事業の損益構造改革による大幅増益を予想。

単位：百万円	2025年3月期 (通期予想)	2024年3月期 (実績)	増 減	
			百万円	(%)
売上高	13,500	13,083	416	3.2
創薬支援事業	2,500	2,318	181	7.8
投資・コンサルティング事業	11,000	10,771	228	2.1
本社・連結調整	-	△6	6	-
営業費用	13,150	12,994	155	1.2
創薬支援事業	2,400	2,456	△56	△2.3
投資・コンサルティング事業	10,550	10,342	207	2.0
本社・連結調整	200	194	6	2.6
営業利益	350	89	260	291.3
創薬支援事業	100	△138	238	-
投資・コンサルティング事業	450	429	20	4.7
本社・連結調整	△200	△201	1	-



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://www.transgenic.co.jp>